

【2022年度の状況】

- 2022年3月24日に「ALPS処理水の取扱いに関する海域モニタリング計画」（以下、東電計画）を公表し、モニタリングの測定点・測定対象・測定頻度を増やしました。放出開始前から環境の状態を把握するため、2022年4月から同計画の運用を開始しています。
- 放出開始前のモニタリング結果の状況について、これまでのところ特に変動は見られていません。

【海水の状況】

- ・測定点、測定頻度を増やした海水のトリチウム濃度について、過去の測定値から変化はなく、追加した測定点についてもこれまでと同等の低い濃度で推移しています。

【海洋生物の状況】

- ・測定点を増やした魚類のトリチウム濃度について、過去の測定値から変化はなく、追加した測定点の分析値の検証が済んだものについてもこれまでと同等の低い濃度で推移しています。
- ・測定点、測定対象を増やした海藻類のヨウ素129濃度について、検出下限値未満でした。

【2023年度の実施内容】

- 東電計画によるモニタリングを継続します。トリチウム分析については、濃縮が可能な試料を対象に電解濃縮装置を導入して検出下限値を下げていきます。
- ALPS処理水の放出開始以降については、発電所周辺において地点を選定し、迅速に状況を把握するためのトリチウム分析を追加します。